

令和6年
夏版

特別企画

経審による全国専門工事業者642社の 経営状況“8指標” 総合評点ランキング

編集部では一昨年まで、読者に健全経営に努力している優良工事業者を広く知ってもらうために、いわゆる“経審”(経営事項審査結果通知書)が公表されており、かつ年間売上高が5億円以上の企業を抽出し、「経営状況分析」の8指標から「X7：営業キャッシュフロー」、「X8：利益剰余金」の2指標を除いた6指標を評価基準にしてランキングを年2回(春・秋)作成してきた。

当時評価基準から除いていた2指標は、企業の「絶対的力量」を示すものとされ、事業規模が強く反映されるため、それらを基準に入れることで、元来大半を占めている下請専門業者の経営健全度が評価しづらくなる懸念があった。しかしながら過去20年間のマンション等民間改修工事の拡大に伴い、元請受注高が増加し専門業者の資金調達能力も大幅に向上したことから、読者の要望に応え、一昨年2月号から「経営状況分析8指標」すべてをもって評価している(指標の内容は次ページに掲載)。また参考として、「Y評点」と元請完成工事高を表す「元請率」も記載することとした。

ここでは、総合評点800点満点のうち、400点以上の企業(仕上工事456社、防水・左官工事186社)を「優良経営企業」として掲載する。

★6指標評価の主たるメリット(+)、デメリット(-)

- ＋：企業の営業活動により生じるキャッシュ収支比率と利益ストック比率を考慮しないため、事業規模の比較的小さい企業でも評価できる。
- －：営業資金力と施工技術能力の低い力量不足企業でも上位となる可能性がある。

★8指標評価の主たるメリット(+)、デメリット(-)

- ＋：事業規模の大きな元請主体企業の総合力と健全度評価がより明確となる。
- －：下請主体企業の元請率の低さと剰余資金能力がより明確になり企業評価格差が出る。

● ランキング表の作成方法と見方 ●

- ★ 今回のデータは、2024年6月30日までにCIIICで掲示されている情報から抽出した。
- ★ 年間売上高は、完工高を含む総売上高とした。
- ★ それぞれの経営指標の評点は、最高の数値を各100点、総合評点800点満点として算出した。
- ★ 総合評点は、8指標の各評点の小数点以下を四捨五入して合計した。
- ★ 著名業者ながら、また総合評点が400点以上ある場合でも、不掲載になっている企業があると思われるが、これらは締切日までに未公表などのためデータ検索が出来なかったものである。
- ★ 総合評点(800点満点)の高い順にランク付けしている。
- ★ 点数が高いほど経営が健全であることを示す。

【8つの経営状況分析指標の解説】

A：負債抵抗力

- ① X 1：純支払利息比率＝売上高に対する純粋な支払利息の割合を見る比率で低いほど良い。
 $(\text{支払利息} - \text{受取利息配当金}) \div \text{売上高} \times 100$

上限値 -0.3 下限値 5.1 数式 $100 / 5.4 = 18.518$

- ② X 2：負債回転期間＝負債総額が月商の何カ月分に相当するかを見る比率で低いほど良い。
 $\text{負債合計} \div (\text{売上高} \div 12)$

上限値 0.9 下限値 18.0 数式 $100 / 17.1 = 5.848$

B：収益性・効率性

- ③ X 3：総資本売上総利益率＝総資本に対する売上総利益の割合、つまり投下した総資本に対する売上総利益の状況を示す比率で高いほど良い。

$\text{売上総利益} \div \text{総資本 (2期平均)} \times 100$

上限値 63.6 下限値 6.5 数式 $100 / 57.1 = 1.751$

- ④ X 4：売上高経常利益率＝売上高に対する経常利益の割合、つまり企業の経常的经营活动による収益力を示す比率で高いほど良い。

$\text{経常利益} \div \text{売上高} \times 100$

上限値 5.1 下限値 -8.5 数式 $100 / 13.6 = 7.353$

C：財務健全性

- ⑤ X 5：自己資本対固定資産比率＝設備投資などの固定資産がどの程度自己資本で調達されているかを見る比率で高いほど良い。

$\text{自己資本} \div \text{固定資産合計} \times 100$ (固定比率の逆数)

上限値 350.0 下限値 -76.5 数式 $100 / 426.5 = 0.2345$

- ⑥ X 6：自己資本比率＝総資本に対して自己資本の占める割合、つまり資本蓄積の度合いを示す比率で高いほど良い。

$\text{自己資本} \div \text{総資本} \times 100$

上限値 68.5 下限値 -68.6 数式 $100 / 137.1 = 0.729$

D：絶対的力量

- ⑦ X 7：営業キャッシュフロー＝企業の営業活動により生じたキャッシュの増減を見る比率で高いほど良い。

$\text{営業キャッシュフロー (2期分)} \div 100,000 \text{円}$

上限値 15.0 下限値 -10.0 数式 $100 / 25.0 = 4.000$

- ⑧ X 8：利益剰余金＝企業の営業活動により蓄積された利益のストックを見る比率で高いほど良い。

$\text{利益剰余金} \div 100,000 \text{円}$

上限値 100.0 下限値 -3.0 数式 $100 / 103 = 0.971$

健全度総合評点＝①＋②＋③＋④＋⑤＋⑥＋⑦＋⑧／800点満点